

COVID-19の現在地と残した爪痕

◆次々新しい変異株が登場し、今も流行が続いているCOVID-19

2019年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が中国武漢市で初めて報告されてから丸5年が経過した。世界を未曾有の混乱に陥れた感染症は、次々と新たな変異株が登場し、ほぼ1年に2回、今も流行を続けている（表1）。世界は、COVID-19への対策として、ワクチンや治療薬の開発を急いだ。また、COVID-19パンデミックはリモートワークやマスク着用などのライフスタイルの変化をも引き起こした。今となっては過剰防衛や効果不明とも言える対策やロックダウンなど社会・経済に大きなダメージを与えたものもあった。これらの混乱もパンデミックの一部であり怖さでもある。

世界の大半の人が感染あるいはワクチン接種による免疫を得たことや、COVID-19を引き起こすSARS-CoV-2が感染力は強いが重症化しにくいオミクロン系統株へと変化したことから、COVID-19パンデミックは終息したとする考えが根強い。しかし、高齢者にとってはインフルエンザを上回る脅威の感染症である点は変わっておらず、日本では、年間数万人がコロナ関連死している。COVID-19の流行が収まったのではなく、人々が落ち着きを取り戻しただけとも言える。また今後、重症化しやすい変異株が登場する可能性が消えたわけでもない。

表1 日本におけるCOVID-19流行期の推移

流行名	流行期間	主たる変異株	死者数	備考
第1波	20年2～5月	B.1.1.114	916	緊急事態宣言(1回目)
第2波	20年6～10月	B.1.1.284	631	
第3波	20年11～21年3月	B.1.1.214	6,338	緊急事態宣言(2回目)、21年2月ワクチン承認
第4波	21年4～6月	アルファ株	6,532	緊急事態宣言(3回目)、蔓延防止等重点措置(1回目)
第5波	21年7～11月	デルタ株	3,933	緊急事態宣言(4回目)
第6波	22年1～22年3月	オミクロン株	12,796	蔓延防止等重点措置(2回目)
第7波	22年7～10月	BA.5	14,368	
第8波	22年11～23年3月	XBB	28,469	23年5月第5類に移行
第9波	23年6～9月	EG.5		
第10波	23年12～24年2月	JN.1		23年の死者数38,080人
第11波	24年7～9月	KP.3		
第12波	24年12月～?	XEC?		

(厚生労働省などの発表資料を元に ARC 作成)

◆多くの人命が犠牲となったCOVID-19パンデミック

日本では、20年以降、10万人を超えるCOVID-19関連死が報告されている。一

方、20～24年12月までの日本の超過死亡数は約27万人とされている。COVID-19に感染して死亡した人だけでなく、パンデミックによる混乱により、持病の治療や検診の遅れなどが影響した可能性が指摘されている。

世界では、COVID-19により約700万人が死亡したと報告されている。しかし新興国では未報告、あるいは未診断のケースも多く、実際には1,910～3,600万人の超過死亡数（現在も増加中）が発生したと推計されている。これは、1918～20年のスペイン風邪（2,000～4,500万人）や1939～45年の第二次世界大戦（5,000～8,000万人）に匹敵する多さだ。また、21年の世界の平均寿命は、ピークだった19年から1.8年短縮し71.4年（12年当時の水準）となった。米国の平均寿命は19年の78.79歳から21年の76.33歳まで低下した（22年は77.43歳とやや回復）。同様な平均寿命の短縮は欧州各国や日本でも認められている。

◆未だ治療法が見つからないロング・コビッドと長期的な健康リスク

ロング・コビッド（コロナ後遺症）とは、COVID-19から回復した後も、数ヵ月から数年にわたって続く呼吸器障害、倦怠感や嗅覚・味覚異常などの様々な原因不明の症状のことを指す。米国では成人の約6.4%がロング・コビッドを経験したことがあるとする報告もある。世界保健機構（WHO）は、COVID-19感染者の10～20%はロング・コビッドを経験している可能性があるとしている。現時点で、ロング・コビッドを特定できる簡易な試験法はなく治療薬もない。糖尿病治療薬であるメトホルミンを服用していたCOVID-19感染者はロング・コビッドになりにくいことから炎症が関係していると推察されている。COVID-19ワクチンはCOVID-19の重症化だけでなくロング・コビッドの予防にも有益とされている。

米国のパンデミック初期におけるCOVID-19罹患者は、心血管疾患（心臓発作、脳卒中および関連死）発症リスクが最大3年間にわたって増加していることも明らかとなった。COVID-19は人類の大半が感染していることから、今後の心血管疾患の発症リスクへの影響も懸念されている。

COVID-19パンデミックは人類に感染症の怖さを教えるとともに、未知の恐怖に対する過剰反応、収束後の過小評価など、多くの重要な知見を与えてくれた。今後、新たなパンデミックが生じると予想されている中、これらの経験やワクチン・治療薬の技術が継承されていく必要がある。

【毛利光伸】